

新幹線開業後の状況把握調査の結果

1 目的

北陸新幹線開業後の県内、観光客などへの影響状況を把握し、新たな長期構想に開業影響を反映させる。

2 調査内容

(1) 交通機関利用実績、県内の景気動向等

(2) 県内外事業者に対する聞き取り調査

調査期間：平成27年7月28日～30日

調査対象：大手旅行会社、県内観光団体・経済団体等（石川県観光連盟、石川県商工会議所連合会、石川県商工会連合会、石川県商店街組合連合会等）

(3) 県外住民に対するインターネット調査

調査期間：平成27年7月18日～8月10日

調査対象：北陸新幹線沿線県・東日本住民 34,000人（第1段階調査）
1,500人（第2段階調査）

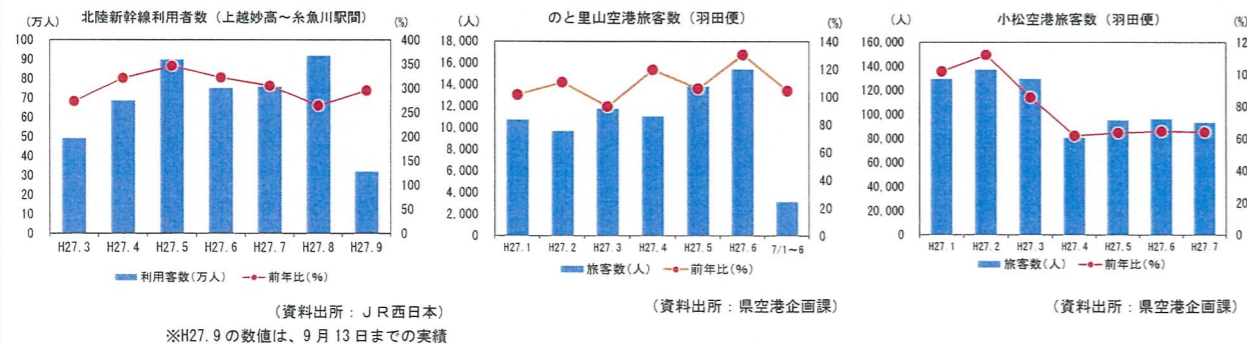
※第1段階調査で石川県訪問経験を調査、第2段階調査で訪問経験毎に各500人の標本を確保し、訪問動機や石川県に対するイメージ等を調査

(4) 県内観光客に対するアンケート（実施中）等

〔調査概要（中間まとめ）〕

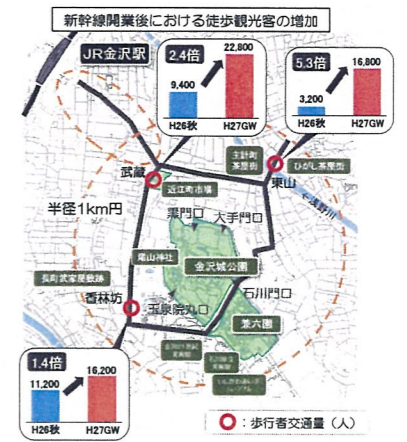
(1) 交通機関利用実績、県内の景気動向等

- 北陸新幹線の乗車実績は、9月時点で前年同期比 約3倍の利用。
のと里山ー羽田便旅客数は、連続テレビ小説の放映もあり、前年を上回る実績であった。
一方で、小松ー羽田便旅客数は、ビジネス客の利用が半減したことから、前年に比べ3割以上の落ち込みとなった。



- 開業により、東北から金沢までが約3時間半に短縮され、東北から本県への旅行者が大きく増加している。
→大手旅行会社での販売（予約）状況
東北発での石川県で宿泊する旅行商品（4～9月） 前年比2.7倍

- 今年のゴールデンウィークに行った調査では、
昨年秋の行楽期と比べ、近江町市場前で2.4倍、
東山で5.3倍、香林坊で1.4倍と多くの観光客
がまち歩きを楽しむという、新たな動きが見られて
いる。



- 金沢城公園や兼六園などの主な観光地や主要宿泊施設の入り込みは前年を上回る状況であり、金沢城公園では2倍近くの入り込みである。

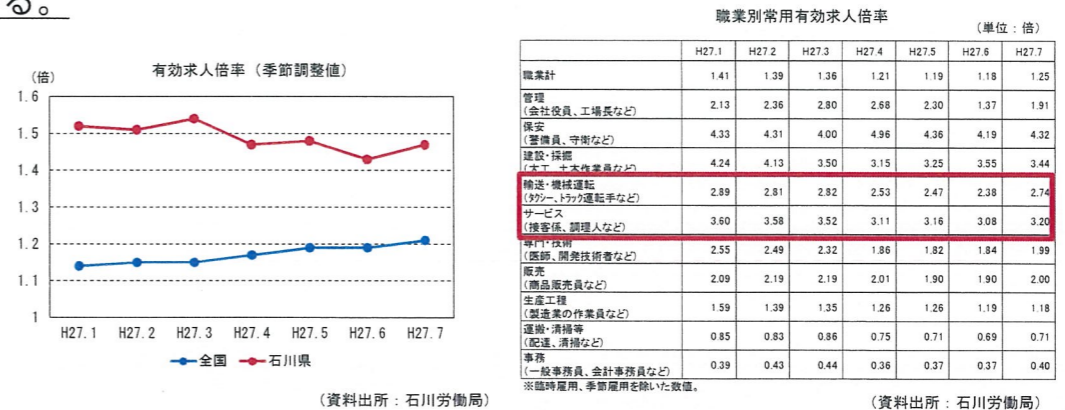
	入込状況	集計期間		入込状況	集計期間
金沢城公園	約140万人（前年比 約1.8倍）	3/14～9/13	金沢市内の主要ホテル	約24.3万人	4月～7月
	約3.2万人（前年比 約1.5倍）	お盆期間（8/14～16）		（前年比 約1.2倍）	
兼六園	約171万人（前年比 約1.4倍）	3/14～9/13	加賀四温泉	約57.1万人	4月～7月
	約5.5万人（前年比 約1.6倍）	お盆期間（8/14～16）		（前年比 約1.2倍）	
輪島朝市	約27万人（前年比 約1.3倍）	4月～7月	和倉温泉	約28.5万人	4月～7月
	約1.4万人（前年比 約1.3倍）	お盆期間（8/14～16）		（前年比 約1.3倍）	

- 北陸3県では、新幹線開業前後で、全体的にDIのプラスを維持。宿泊・飲食業では、プラス幅の拡大が続いている。

DI		平成26年 12月	平成27年 3月	6月	9月	12月 (見通し)
北陸3県 （カッコ内は 全国値）	製造業	12 (6)	13 (5)	10 (4)	9 (5)	2 (2)
	はん用・生産用・業務用機械	26 (14)	26 (17)	39 (18)	39 (17)	21 (9)
	電気機械	18 (11)	38 (11)	32 (8)	19 (2)	21 (2)
	食料品	13 (▲3)	0 (▲5)	43 (4)	29 (5)	14 (4)
	繊維	0 (▲14)	3 (▲13)	▲11 (▲15)	▲11 (▲11)	▲21 (▲14)
	非製造業	10 (4)	14 (9)	12 (10)	13 (10)	10 (7)
	小売業	▲3 (▲14)	16 (▲5)	14 (0)	7 (1)	▲7 (1)
	宿泊・飲食	15 (▲1)	46 (▲1)	62 (10)	67 (15)	75 (7)
	建設業	37 (19)	31 (19)	14 (16)	12 (15)	12 (9)
	全産業(全体)	12 (5)	13 (7)	11 (7)	11 (8)	7 (5)

DI(ディフュージョン・インデックス)：業況が「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた値

- 新幹線開業の影響もあり、本県の7月の有効求人倍率は1.47倍となり、サービスに関する職業や、輸送・機械運転の職業における人手不足が続いている。



(2) 県内外事業者に対する聞き取り調査結果 (概要)

《観光入り込みについて》

- 6月頃までの北陸地域旅行商品の購入者は前年比400%であった。(大手旅行会社)
- 開業後の客数の伸び率が最も大きいのはファミリー層で300%~400%の伸び。(大手旅行会社)
- 北陸地域旅行商品の企画数は前年比150~200%増加した。いずれの企画も客数が増加している。(大手旅行会社)
- 顧客に金沢市内、和倉温泉の人気の高い。特に和倉温泉は以前から首都圏における認知度も高く、北陸新幹線開業後の客数の伸び率は金沢市以上である。一方で白山エリアはそれほど伸びていない。(大手旅行会社)
- 外国人が増えてきた。中でもフランス人が多い。ただし、欧州からの来訪客は街中も徒歩や自転車で回ることが多く、物を買わないことが多い。(県内経済団体)
- 山中温泉は関西からの客が6割を占めるため、福井・敦賀延伸の状況次第で、大阪から来る人が減るのではないかと心配している。(県内経済団体)

《景況について》

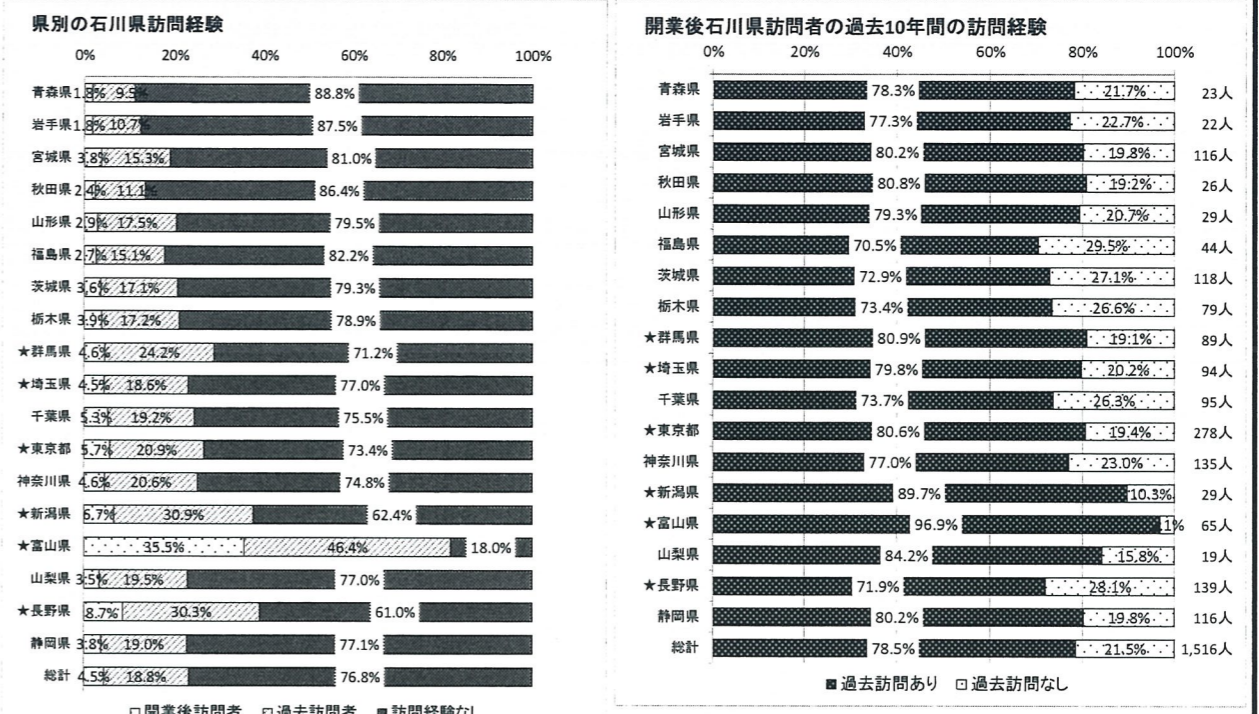
- 会員企業の第1四半期(6月予想)の景況調査で、「良い」と「やや良い」との回答が44.3%であった。特に、小売・サービス、食品製造等が好況である。人手不足の企業も多い。金沢市内の飲食業は猫の手も借りたいぐらい人手不足である。いつまで続くか分からないため、採用を増やすところまでできない。(県内経済団体)
- 昨年10月に行ったアンケートでは、ストロー効果(支社の撤退)を懸念する声が多かったが、実際にはほとんど影響が出ていない。(県内経済団体)
- 件数は少ないが新規開業が増えている。新幹線開業を見込んだ効果と見られる。(県内経済団体)

《開業効果を持続発展させるための改善要望》

- 首都圏の人は「北陸」というエリア単位で関心を持っている人が多い。北陸3県の広域で連携して取り組んでいただきたい。(大手旅行会社)
- 金沢の一人勝ちと言われるが、金沢から能登や加賀へ行く人が多い。県内での連携も重要。(県内経済団体)
- 二次交通の充実を期待したい。レジャーを含めた交通アクセスの充実が必要。冬はレンタカーの運転が怖いというお客様もいるため、移動手段としてはバスがメインになると思われる。(大手旅行会社)

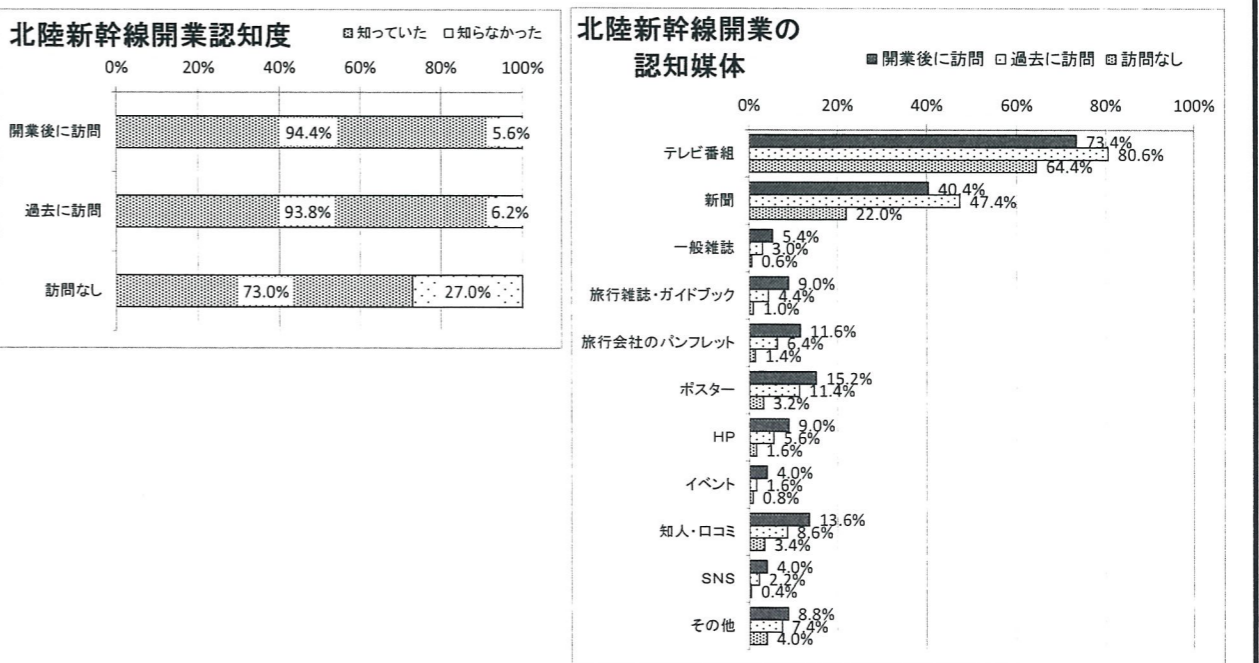
(3) 県外住民に対するインターネット調査結果

- 北陸新幹線金沢開業後、沿線県を中心に石川県を訪れ、調査地域の4.5%の人が開業後来県したと回答した。一方で、石川県を一度も訪問していないと回答した人は7割以上であった。開業後の来県者の内、約8割が過去10年間に石川を訪れた人であり、観光客の更なる増加に向け、石川ファンの拡大が課題となった。

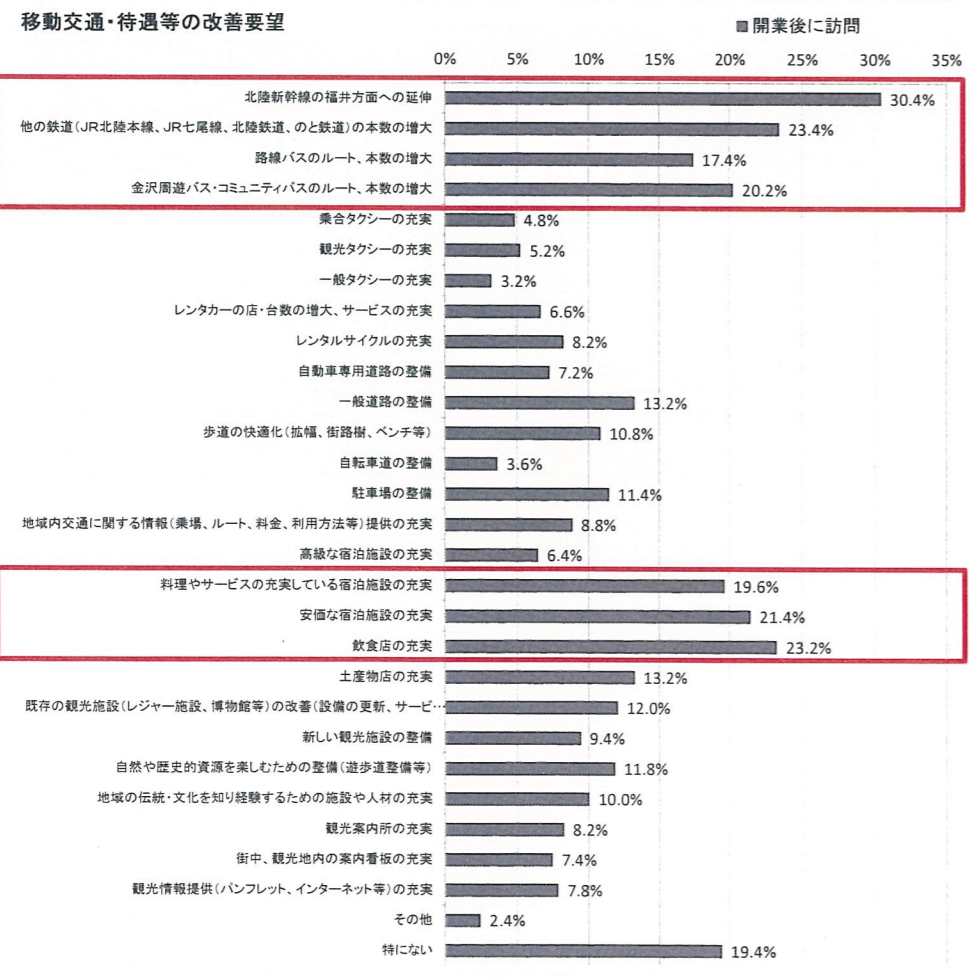
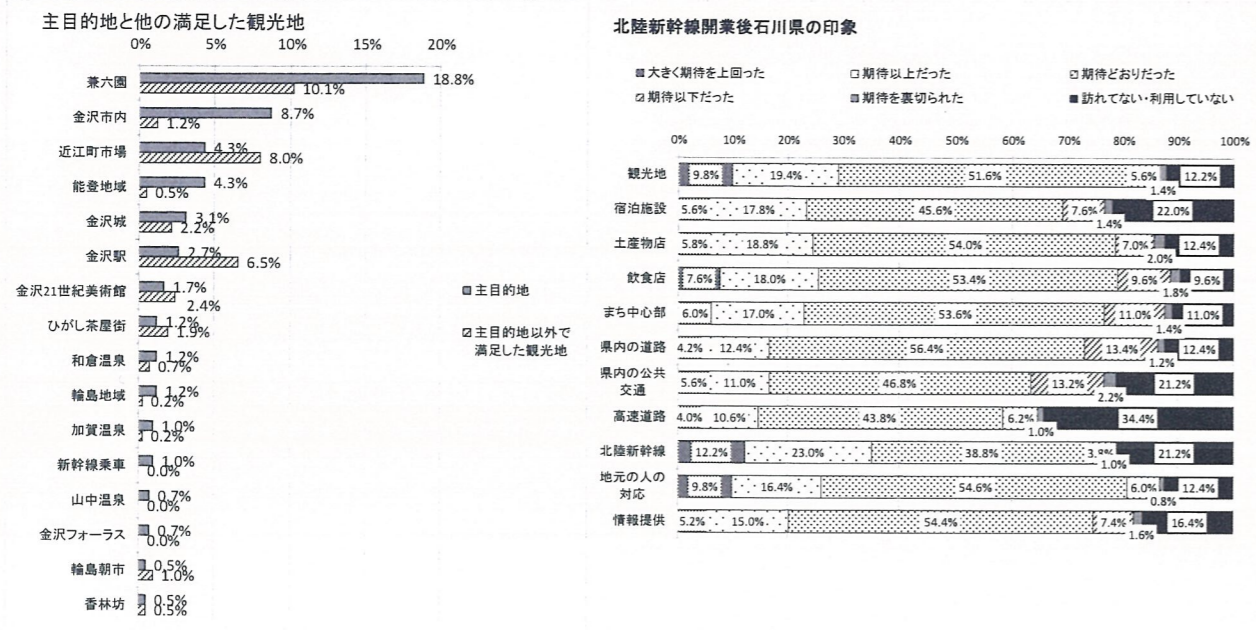


注1: ★印は北陸新幹線沿線県を示す。
注2: 右端数字は都県別回答者数を示す。

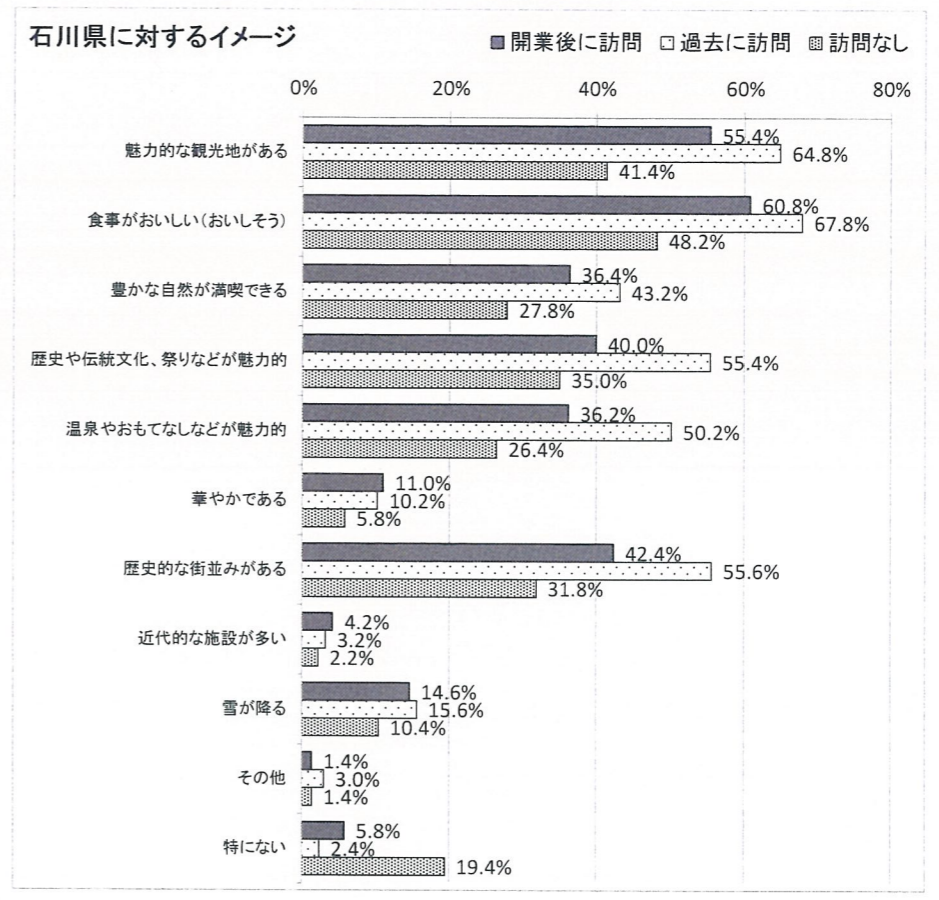
- 今回の調査対象エリアでは、北陸新幹線金沢開業を9割近くの人が認知。テレビや新聞で金沢開業を認知した人が多い(テレビ約70%、新聞約40%)。一方で、「訪問経験なし」の人は約70%の認知に留まっており、認知度向上のための情報発信が今後の課題となった。



○ 来県の主目的地を兼六園と回答した人が多く、観光地等を訪れた感想を期待どおりと回答した人が過半を占めた。その一方で、北陸新幹線の延伸や、県内の公共交通などの改善を求める声が多く、今後の満足度向上のための課題となった。



○ 石川県に対するイメージは、「食事がおいしい(おいしそう)」(59%)、「魅力的な観光地がある」(54%)、「歴史的な街並みがある」(43%)、「歴史や伝統文化、祭りなどが魅力的」(43%)、「温泉やおもてなしなどが魅力的」(37%)、「豊かな自然が満喫できる」(36%)の順に多い。



【用語説明】
 グラフ中の「開業後訪問者」、「過去訪問者」、「訪問経験なし」は下記の通り、
 ① 「開業後訪問者」：金沢開業後に石川県を訪問したことがある人
 ② 「過去訪問者」：開業前過去10年間に石川県を訪問したが、金沢開業後に石川県を訪問したことがない人
 ③ 「訪問経験なし」：開業前過去10年間も含め一度も石川県を訪問したことがない人